

## 1. 調査報告概要表

作成日 平成 年 月 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入)
法人名	有限会社 風
事業所名	グループホーム 「シュアー」
所在地 (電話番号)	〒507-0004 多治見市小名田3丁目112番地 (電 話) 0572-24-8403
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	羽島市竹鼻町狐穴719-1
訪問調査日	平成19年5月21日

## 【情報提供票より】(19年5月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 11 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	8 人
常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算7.5 人

## (2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	木造	造り
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

## (4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名	
要介護1		名	要介護2	1	名	
要介護3	3	名	要介護4	2	名	
要介護5	2	名	要支援2		名	
年齢	平均	86 歳	最低	80 歳	最高	91 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	多治見市民病院、 共栄診療所
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームシュアーは、多治見市の郊外の従来からある静かな住宅地の中に建っている。借りた住宅を若干手を加え、木の香りが部屋中漂い、ログハウスのような静かで落ちついた施設である。開設当初から、地域住民に親しまれており、毎日のように野菜が届けられたり、そば打ちや落語寄席等のイベントには地域住民の参加がある。また、ホームで利用者が作った花見弁当や白玉ぜんざい等を近所の独居老人宅に配布して喜ばれており、近所の人々と家族のような付き合いをしていて、ホームは地域の一員としての役目を果たしている。一方、管理者や職員は、利用者の尊厳を重視し、その人らしい暮らしの継続確保のためにターミナルの支援も含め楽しく共に生活し、本人本位のサービスを目指している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の要改善点は、2項目であり、その一つ「玄関の案内」については、大きな文字で案内板が出来ていて、利用者や家族、地域住民の誰でも良く分かるものになっている。もう一つは「危険物の管理」についてだが、利用者の手の届かないところに置いたり、必要以外のものは鍵のかかる棚に入れ、利用者の安全に配慮している。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回から、地域密着型サービス体系となり、自己評価も以前とは、項目数や評価の方法、内容が変わったため、職員全員で評価の意義や出来ていること、やれていないことをなどを話し合いながら、職員全員が自己評価に携わり、サービスの質の向上に繋げている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営委員会を設置して、5月に第1回目が開催された。最初の会議となるため、施設が、参加者に施設の案内やサービス・支援の内容の説明をし、参加者からは、施設に対しての疑問等の意見を聞き、記録するとともに、今後のサービスの質の向上に活かしている。また、市との関わりは運営推進委員会以外にも、施設での勉強会や課題解決についての助言を求めたり、市の福祉課が行なう障害者等見守りの行事に参加するなど、連携を密にしている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族との関わりについては、面会時に利用者のご家族と一緒に、利用者の暮らし振や健康状態、金銭管理等について話し合い、また、面会の少ない人はホームの通信で定期的に報告している。 苦情や不安、意見等は出し難いことを考慮し、苦情担当者の紹介や意見箱の設置などを繰り返し説明し、また、代表者のメールアドレスを知らせてあり、どのご家族も気軽に話すことができるよう対応している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームは多治見市の郊外の住宅地にあり、開設当初から地域住民とのふれあいや交流がされている。近所の人たちが毎日、日替わりで取れたての野菜を届けてくれる。また、ホームで行なう落語寄席に聞きに来たり、蕎麦打ちやうどん打ちの指導に来たりと、交流が盛んである。自治会にも加入しており、葬儀の手伝いや、側溝掃除、ゴミ当番、公園や神社の清掃等自治会活動に参加してホームが地域の一員となっている。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの基本方針は、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、その人らしい暮らしの継続と多機能性を活かした支援をすることであるが、当該施設シュアの理念は、それらを網羅して、かつ、分かりやすい表現になっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内で掲げている理念を話題にし、利用者と職員が話し合うことにしている。また、月1回の全体会議の当初に、理念の全文を職員が交代で読んでおり、日々の生活のかなで理念を再確認する場面を作っている。他に職員の身分証明書の裏面に理念を載せており、新しい職員にも理念の大切さを指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	従来から存在する住宅地にあり、開設当初から地域住民とのふれあいや交流がされている。最近では、近所の人たちが毎日、日替わりで取れたて野菜を持ってきている。また、自治会に加入しており、葬儀の手伝い、側溝掃除、ゴミ当番や神社の清掃等自治会の活動に参加して、地域の一員としての役割を果たしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回から地域密着型サービス体系になり、自己評価も以前とは項目数や評価内容が変わったため、職員全員で評価の意義や出来ていること、やれていないことなどを話し合い、職員全員が自己評価に携わり、サービスの質の向上や改善に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、5月に第1回目が開催された。初めての会議となるが、ホームが地元民生委員や班長さん、市の担当者等、参加者に施設の案内やサービス・支援の内容を説明し、また、参加者からは、施設に対しての疑問等の意見を聞き、記録をするとともに今後のサービスの改善に活かしている。	○	今後は、自己評価の内容を説明したり、外部評価の結果などを会議の中で報告し、運営推進委員に改善経過モニター役として活躍していただくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームで、市役所福祉課から来てもらい、生活保護等についての勉強会をしたり、市が開催した障害児の日中の見守り方事業に参加するなど、運営推進会議以外でも、市役所と連携を密にしている。また、ホームでの課題に付いても担当者の助言を得たりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族には面会時に、本人の暮らしぶりや健康状態などを報告している。また、月1回は通信で報告したり、日常で変化の起きた時はFAXで連絡をとっている。個人情報に関するものは必ず封書か電話でお知らせしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	通信時に毎回、苦情窓口の案内等について載せており、また、ご家族等に代表のメールアドレスを知らせて、苦情や不満が言いやすい仕組みが出来ている。更に面会時にも職員がご家族と話す機会を多く持ち、ご家族の意見や苦情を聞き出しており、意見等を施設の運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代表者や管理者は、職員が代われれば利用者が混乱状態になることを理解しており、職員が止むを得ない事由で退職する以外はなるべく長く勤務してもらう工夫をしている。例えば、希望休、育児休暇、有給休暇等を取りやすいようにしたり、学齢期の子どもを持つ職員には勤務時間にも配慮して、働きやすい環境を作っている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者や管理者は、地域密着型サービスの質は、サービスを実施している現場の職員によるものが大きいことを理解しており、実務者研修、成年後見制度の研修、グループホーム協議会の研修等段階的に研修を受講させている。また、研修結果を職員で共有するために、全体会議等で報告する体制が出来ている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのネットワークは出来ていないが、利用者募集時には、市内の他ホームに出向き、利用者等の情報交換をしている。また、他のホームの職員の実習を受けるなど、相互訪問をし、交流を深めるとともに、お互いのサービスの質の向上に向ける機会を作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所の希望のある利用者には、ホームから出向いて重要事項説明書に沿って分かりやすく説明し、利用者やご家族が安心、納得されることを第一に考えている。利用者やご家族が希望すれば施設見学を受け入れをしている。地域密着型サービスの特徴を活かした馴染みながらの利用、相談の体制が出来ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者一人ひとりの気持ちを大切に話し、日々、楽しみながら一緒に生活している。得意な役割をしている利用者、例えば読書、花作り、裁縫、調理、片付け等の中で、コミュニケーションをとりながら、利用者から昔の智恵を教えもらったり、職員からそれぞれについての新しい情報や技術を伝える支援を日常的に行なっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりの性格を熟知しており、本人が何をしたいか等を聞き出したり、話すことの出来ない人は、その人の行動や目の配りから本人の思いや意向を把握している。また、面会時に職員も同席し、ご家族と話し合いの中で、思いや意向を聞き、そのことも踏まえ本人本位のサービスや支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書は、介護計画作成担当者、管理者、主任、利用者担当者等で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い、まずは素案を作成し、それを元にして、更にご家族や職員全員で、協議・検討して作成をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月、6ヶ月で介護計画の定期的見直しを行なっている。また、利用者の状況やご家族の要望、希望等が日々、変化することを理解し、変化が生じた時は、臨機応変に対応する体制が出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	落語寄席を開催して地域の人に参加してもらったり、自治会が行なう公園や神社の清掃、利用者の実家へバーベキューに出かけたり、毎日のように利用者とドライブしたりと、地域の特性を活かした外出支援を行なっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームから2、3分のところに、診療所があり、その医師を、利用者やご家族に説明し、納得を得てかかりつけにしている。また、利用者の状態が急変したとき、いつでも往診等が可能であるため、利用者や特にご家族が、安心してている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人とご家族の大きな関心と不安の1つが重度化が進んだ場合であり、その心配を取り除くことの大切さを、代表者や管理者が理解しており、終末期のあり方についてを、早くから文章化している。また、そのことをご家族にも伝えており、一部のご家族とは、終末期についての話し合いを行なっている。	○	終末期のあり方について、ホームの方針の文章化は出来ているが、今後は、家族会で終末期のあり方について話し合うほか、利用者8人、全てのご家族に分かりやすい説明をするとともに、具体的な話し合いをし、文章に定める予定である、と聞いたが、なるべく早く実現されることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	高齢者介護のキーワードは「尊敬・尊厳」であり、プライバシーの確保の徹底を含めて、会議で話し合ったり、勉強会をしている。また、ホーム内では、記録に個人名を書かず、職員間でわかる方法をとっている。たよりや通信等個人情報が外部に出るときは、本人やご家族等の同意と署名をもらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、日々の生活や支援について、1日の流れの予定はあるが、常に本人本位に考えており、一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。特に得意なことや、なにをやりたいか等見極めて、利用者の希望に添った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜等の皮むきや食後の下げ膳、食器拭きなど食事に関係する役割が出来ている。また、食事は職員全員が利用者の中に入り、会話を交わしながら、楽しく食事をしている。時には、近所の公園におむすびをもって出かけたり、気候の良い日は野外でパーティ形式で食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則として、週3回の入浴日が決まっていますが、本人の体調や作業、運動等で汗のかき具合により、入浴やシャワーを行なっている。また、歩行可能な人と歩行困難な人等、その人に合わせた入浴をしている。入浴に伴う羞恥心や恐怖心にはお互いに気をつけて支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	管理者や職員は、利用者にあった楽しみごとや役割を持たせることで、本人が見違えるような日々を過ごすことがあることを理解し、本人やご家族から昔話の中で、趣味や特技を聞き出す工夫をしている。また、利用者は掃除や食器拭き、針仕事や園芸等を楽しみながら役割を果たしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の公園への散歩や毎日のように出かけるドライブ、そして買い物、喫茶店、自分達で作ったそばやうどん、おかずを独居老人宅への配達など、日常的に外出支援を行なっている。利用者も毎日、何処に行くかを楽しみにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵のかけないことの原則を、職員全員が理解しており、日中、鍵はかかっていない。利用者が外に出たいときは、手の空いた職員がすぐ出られる体制が出来ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	代表者と管理者は、ホームの建物がログハウスを思わせるような木造で、しかも2階建てであることで、防災については、細心の注意を払い、職員にも指導、指示をしている。また、消防署の協力で防災訓練を実施し、かつ、災害マニュアルを作成して、職員全員に周知をしている。	○	今後は、地域の住民とともに、一体化した災害訓練の実施を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調に合わせて食事の量等を考えている。また、色々な食品を少しでも良いから品目数を増やし、盛り付けにも工夫して食欲をそそるようし、かつ、栄養のバランスにも気を配っている。水分についても、おやつ時や外出、入浴の後の水分補給を欠かさず、記録も残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が静かで、落ち着いた雰囲気であまり、居心地がとても良い。窓が大きく、風や空気、そして柔らかな日差しが、自然な形で入ってくる設計になっている。居間や各部屋は広く、窓からは近くの山々が見え、若葉や紅葉等居ながらにして四季を感じることができる。また、調度品や飾りつけは、家庭的な雰囲気を壊さないよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、天井も床も壁も全て無垢の木で仕上げられており、温かみがあり、ホッとできる落ちついた場所となっている。部屋の中は、利用者の馴染みの家具が持ち込まれて、家庭的な雰囲気となっている。また、それぞれの部屋は広く、ご家族が面会に来たり、宿泊もその部屋でできるようになっている。		